

@@

立命館大学スポーツ健康科学研究センターBeActive研究会
「BeActiveニュース」第3号 2016年6月3日（金）

@@

執筆者：家光 素行（スポーツ健康科学部 教授）

BeActive研究会の「BeActiveニュース」

BeActive研究会に所属する、スポーツ健康科学部教員は、スポーツだけでなく、健康や栄養、臨床の研究の成果を様々な学会で報告しております。是非、興味のある方はご参加頂くか、BeActive研究会にて問い合わせください。

5月の学会発表

・第70回日本栄養・食糧学会大会（神戸）にて4演題発表しました。サプリメント摂取における生体内への効果の報告や運動との併用効果などを発表しました。

【藤田研究室：1演題】

①若年者における新規酸性乳飲料の摂取が血中ロイシン濃度に及ぼす影響

【家光研究室：3演題】

- ①長期的なクロレラ摂取は無酸素性運動能力と骨格筋の解糖系代謝を亢進させる
- ②肥満モデルラットのDHEA長期摂取は動脈組織のapelin産生増大を介してnitric oxide産生調節に影響する
- ③中高齢者のトゲドコロ長期摂取による動脈硬化度への影響

6月の学会発表

・第63回アメリカスポーツ医学会（American College of Sports Medicine）がアメリカ（ボストン）にて田畑、真田、藤田、家光、橋本、後藤研究室から合計19演題が発表されます。

主な発表内容として、

- ・運動と認知、乳酸代謝と認知に関するヒト試験
- ・骨格筋肥大、筋収縮と糖代謝、運動と骨代謝に関する動物・ヒト試験
- ・高齢者の動脈硬化に対する運動効果、動脈硬化を低下させる運動種目、筋肥大とテストステロンに関するヒト・動物試験
- ・短時間間欠の高強度運動と酸素摂取量、運動後の代謝量に関するヒト試験
- ・運動と食欲低下、低酸素環境下における高強度運動と代謝および筋損傷への影響、低酸素環境下のスプリント運動のパフォーマンス・代謝応答、睡眠不足とパフォーマンスへの影響、スプリントトレーニングの効果に関するヒト試験
- ・第16回日本抗加齢医学会総会（横浜）にて3演題を発表する予定です。サルコペニアの新たな機序に関してや局所性脂肪蓄積による動脈硬化への影響、高齢者の運動による動脈硬化改善効果の機序に関する研究成果を発表します。

【家光研究室：3演題】

- ①習慣的なレジスタンス運動は加齢によって増大する骨格筋の線維化を抑制する
- ②中高齢者の動脈硬化改善に必要な有酸素性トレーニング期間と血管拡張物質産生に関する経時的検討
- ③中高齢者の体力レベルが筋細胞外脂肪含有量と動脈硬化度の関連性に及ぼす影響

@@

2016. 6. 3 Vol. 3. txt

スポーツ健康科学研究センター
BeActive研究会
公式ホームページ

<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/re/spoken/index.html>

研究会イベント、シンポジウム情報、及びメルマガバックナンバーなど掲載！